

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	森山小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1		1	0	1		0	3	3
児童数	2	5	6	0	5	6	0	24	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上を目指して
 ~ 個に応じた少人数・複式学級の指導法の研究 ~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 全学年 国語
 平成15年度NRTの結果や児童に対する実態調査の結果から、現在最も身につけさせたい力の一つであると考えたため。
 また、国語は全教科に関わる最も基礎的な学力だと考えるため。

(2) 年次ごとの計画

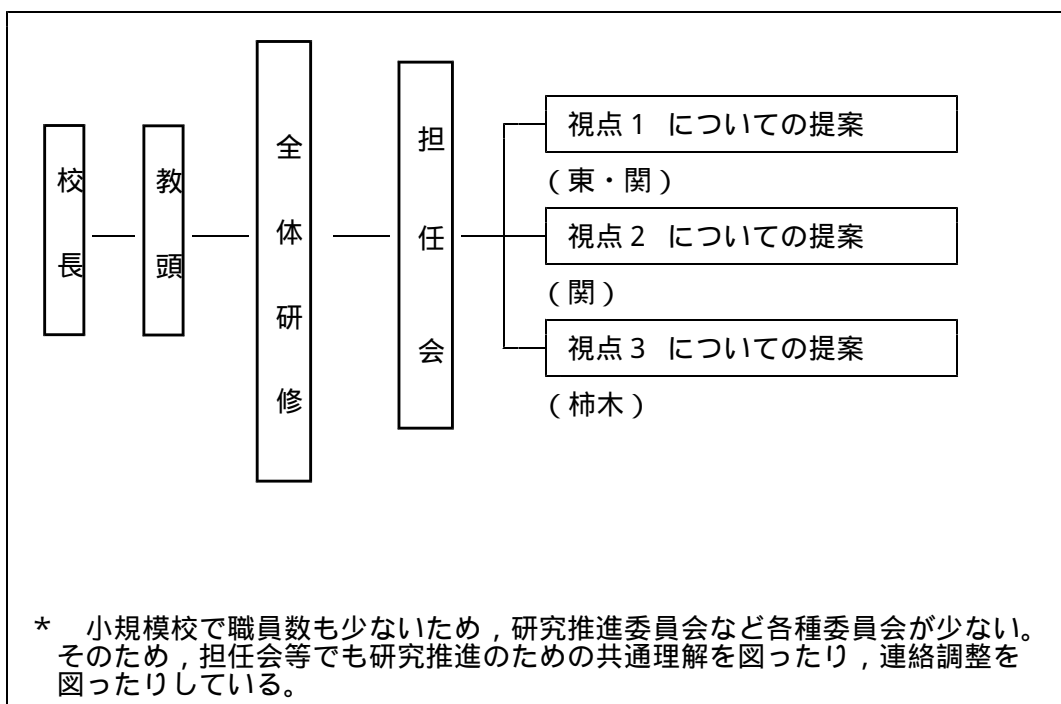
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上を目指して ~ 個に応じた少人数・複式学級の指導法の研究 ~」</p> <p>研究の見通し(仮説) <仮説1> 少人数・複式学級において、自ら考え主体的に学ぶ態度の育成を図り、一人一人に応じたきめ細かな指導を行えば、生きる力の土台となる確かな学力の向上が図れるのではないかと。 <仮説2> 基礎的な知識や技能について繰り返し学習を工夫したり、学習過程を工夫したりすれば、子供たちは望ましい学習習慣を身につけ、基礎学力の定着が図れるのではないかと。 <仮説3> 全教育活動の中で、児童一人一人が主役になれる機会をとらえ、自分の見方や考え方を確かに持たせたり、友達と考えを交流させたりすることで、小規模の特性を生かした学びが具体化できるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	---

	<p>< 視点 1 > 少人数・複式学級における個に応じた指導法の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド学習の充実 ・個に応じた補充・発展的な指導法の研究 ・個に応じた指導のための評価の研究 <p>< 視点 2 > 基礎学力定着のための指導法の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し漢字学習の取り組み ・1単位時間の指導過程の工夫 ・学力定着のための実践事項の研究 ・家庭学習の充実 <p>< 視点 3 > 小規模校の特性を生かし、一人一人が生き生きと活動する場の研究</p>
--	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上を目指して ～ 個に応じた少人数・複式学級の指導法の研究～」</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>< 仮説 1 > 少人数・複式学級において、自ら考え主体的に学ぶ態度の育成を図り、一人一人に応じたきめ細かな指導を行えば、生きる力の土台となる確かな学力の向上が図れるのではないかと。</p> <p>< 仮説 2 > 基礎的な知識や技能について繰り返し学習を工夫したり、学習過程を工夫したりすれば、子供たちは望ましい学習習慣を身につけ、基礎学力の定着が図れるのではないかと。</p> <p>< 仮説 3 > 全教育活動の中で、児童一人一人が主役になれる機会をとらえ、自分の見方や考え方を確かに持たせたり、友達と考えを交流させたりすることで、小規模の特性を生かした学びが具体化できるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>< 視点 1 > 少人数・複式学級における個に応じた指導法の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド学習の充実 ・個に応じた補充・発展的な指導法の研究 ・個に応じた指導のための評価の研究 <p>< 視点 2 > 基礎学力定着のための指導法の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し漢字学習の取り組み ・1単位時間の指導過程の工夫 ・学力定着のための実践事項の研究 ・家庭学習の充実 <p>< 視点 3 > 小規模校の特性を生かし、一人一人が生き生きと活動する場の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模の特性を生かした取り組みの研究 ・行事や諸活動の活動記録や感想等の蓄積・共有（「情報の日常化」） ・HPを活用して児童が森山の情報発信 = 表現力の育成
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 児童の実態を意識調査やNRT標準学力テストの結果分析等により、多方面からとらえることができた。
- ・ 本年度5回の研究授業を設定し、指導案検討から授業研究まで全員で取り組み、授業の充実と指導技術の向上に努めることができた。
- ・ ガイドの育成のための手だてを研修することで、児童のガイド学習の定着が図られ、学ぶ力の育成がされつつある。
- ・ 少人数であることを生かし、個に応じた指導と評価に努めたことで、一人一人の実態をよりの確に把握することができた。また中でも、評価項目を一つに絞ることで、複式学級でも簡単に的確に評価でき、次時の学習の支援へとつなげることができた。
- ・ 基礎学力定着のために週1回設けた「森っ子タイム」に対する児童の習慣化がなされ、意欲も高まった。また週1回の漢字力テストでも、全学年ほぼ9割以上の正解率となっている。
- ・ 家庭学習の手引き作成を目指し取り組んできたが、宅習の仕方について児童と話し合う中で約束や目標が見つかり、学ぶ意欲の高まりや習慣化が図られつつある。

2. 今後の課題

- ・ 今年は1年次ということで、どの視点も提案にとどまっているため、次年度はそれらを随時検証しさらに深めていきたいと考える。
- ・ さらにガイド育成のための指導法を研究し、子ども一人一人が自信や目標を持って主体的に学べるようにしていきたい。また、それらの指導法を何らかの形でまとめたいと考える。
- ・ 複式学級での個に応じた指導のための評価補助簿について検証し、より適切なものへと改善していく必要がある。また、その評価に裏付けられた一人一人に応じた支援の方法もさらに開発していきたい。
- ・ 1年次は基礎学力の中でも漢字力という事に焦点化してきたが、2年次はさらに「読むこと」や「書くこと」という力までステップアップしていきたい。
- ・ 家庭学習については、1年次児童と話し合ってきたことをまとめ手引きを作成し、その充実のための家庭への啓発も行っていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ N R T 標準学力テスト（年 1 回・ 1 学期）
- ・ 自作学力テスト（每学期 国語・算数）
- ・ 繰り返し漢字テスト（毎週水曜日）
- ・ 単元ごとの定着度テスト

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 12 / 17 第 1 回 学力向上推進協議会開催
場所：本校 対象：地区協議会 目的：会発足のため
- ・ 1 / 28 第 2 回 学力向上推進協議会開催
場所：本校 対象：地区協議会 目的：中間報告と実践事例の取り決め
- ・ 平成 16 年 10 / 28 公開研究予定
- ・ 平成 15 年 11 月末日 HP を立ち上げ，情報発信中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校
- 【学校規模】 6 学級以下 7 ~ 12 学級
 13 ~ 18 学級 19 ~ 24 学級
 25 学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・T による指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無